作品の閲覧

2026－6－24　　『ある男』

何でも読もう会

書 物 名	『ある男』	開催日	出席者
作　者	平野啓一郎	６月２４日	４名

＜作品の内容等＞

　離婚を経て、息子の悠人を連れて、宮崎の実家文房具店に戻った里枝。どこからか流れてきて林業の仕事に精を出す谷口大祐と知り合い、再婚し幸せな生活をしていた。大祐は伐採の仕事中に事故死してしまう。

　大祐の兄に連絡をすると、弟の大祐ではなく別人と分かる。離婚のときに世話になった弁護士城戸に相談をする。

　在日三世である城戸弁護士が大祐と名乗ったＸの正体を探るミステリー展開となるが、それを通じて民族差別やヘイトスピーチが横行する社会を焙り出す。また死刑制度の問いかけや犯罪者の家族の問題から、過去を捨てる人間、戸籍交換というものを描いていく。

　一方では家族と子供の交わりという家庭の問題も描いている。

＜皆さんの感想意見＞

主な意見等

- 平野啓一郎の作品を取り上げるのは『一月物語』『本心』に続いて３冊目になるが、どれも違った視点で構成されており、平野小説ファンの気持ちが解る。
- 平野啓一郎と言えば「分人主義」を掲げているが、この小説はそれを具体したものとして読めたように思う。
- 東日本大震災後の弁護士としてのボランティア活動や関東大震災での朝鮮人問題も取り上げられている。ただし、いろんな社会問題を取り込んでいるため、読み手に重く圧し掛かってくるような感じがした。
- 戸籍売買の実態がよく解らなかったのは残念に思う。
- 映画化され、日本アカデミー賞では各部門を受賞しただけに映画を見てみたかった。

等々